

かき

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

作型・病害虫名	月											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地				発芽	開花							収穫
炭疽病												
落葉病												
うどんこ病												
ハダニ類												
カキノヘタムシガ(カキミガ)												
カメムシ類												
カキクダアザミウマ												
チャノキイロアザミウマ												
フジコナカイガラムシ												

炭疽病 (たんそびょう)

留意事項

- 1 富有、平核無などで発病が多い。
- 2 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤はかぶれに注意する。
- 3 ベルクート水和剤は西村早生では葉に薬斑が生じるので使用しない。
- 4 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤は同一成分マンゼブを含むため、使用は合計2回まで。

防除方法

- 1 園の排水を良好にし、密植を避ける。
- 2 窒素質肥料の過用を避け、枝梢の充実を図る。
- 3 被害枝は、せん定時に切除する。
- 4 激発園では5月中～下旬に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ジマンダイセン水和剤](#)、[ペンコゼブ水和剤](#) M3 【400～800倍 45日／2回】
 - ・ [トップジンM水和剤](#) 1 【1000～1500倍 前日／6回】
 - ・ [ベルクート水和剤](#) M7 【1000～1500倍 14日／3回】
 - ・ [オンリーワンフロアブル](#) 3 【2000～3000倍 前日／3回】

落葉病

留意事項

- 1 円星落葉病と角斑落葉病とがあり、いずれも樹勢の弱った時に多発する。
- 2 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤はかぶれに注意する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 3 ベルコート水和剤は西村早生では葉に葉斑が生じるので使用しない。
- 4 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤は同一成分マンゼブを含むため、使用は合計2回まで。
- 5 SDHI剤(7)は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 冬期に園内の落葉を集めて地中に埋めるか、または、ほ場外に持ち出して処分する。
- 2 施肥などの土壌管理に注意し、樹勢を健全に保つ。
- 3 発生が見込まれる時期（円星落葉病は5～6月、角斑落葉病は5～7月）に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ジマンダイセン水和剤](#)、[ペンコゼブ水和剤](#) M3 【400～800倍 45日／2回】
 - ・ [ベルコート水和剤](#) M7 【1000～1500倍 14日／3回】
 - ・ [トップジンM水和剤](#) 1 【1000～1500倍 前日／6回】
 - ・ [ネクスターフロアブル](#) 7 【1500倍 前日／3回】

うどんこ病

留意事項

- 1 春～初夏の若葉では表面に黒色小斑点を生じ、8月頃になると裏面に白色粉状の典型的な病斑を示す。
- 2 ベルコート水和剤は西村早生では葉に葉斑を生じるので使用しない。
- 3 QoI剤(1 1)、SDHI剤(7)は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 被害葉はほ場外に持ち出して処分する。
- 2 発生が見込まれる時期（5～9月）に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ベルコート水和剤](#) M7 【1000～1500倍 14日／3回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トリフミン水和剤](#) 3 【2000～3000倍 前日／3回】
 - ・ [ストロビードライフロアブル](#) 1 1 【3000倍 14日／3回】
 - ・ [パレード15フロアブル](#) 7 【2000～3000倍 前日／2回】

ハダニ類

防除方法

- 1 冬期に粗皮削りを行う。
- 2 3月(発芽前)に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [石灰硫黄合剤](#) UN 【落葉果樹 7～40倍 発芽前／—】
- 3 発生初期に下記の薬剤を散布する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [ダニコングフロアブル](#) 2 5 B 【2000～4000倍 前日／1回】
- ・ [ダニトロンフロアブル](#) 2 1 A 【1000～2000倍 7日／1回】
- ・ [ニッソラン水和剤](#) 1 0 A 【2000～3000倍 7日／2回】
- ・ [マイトコーネフロアブル](#) 2 0 D 【1000～1500倍 7日／1回】

カキノヘタムシガ（カキミガ）

留意事項

- 1 パダンSG水溶剤は、眼及び皮膚に強い刺激があるので注意する。また、樹勢の弱い場合には薬害を生じるおそれがあるので使用しない。

防除方法

- 1 落葉を集めて埋没または、ほ場外に持ち出して処分する。
- 2 9月上旬にわらなどを幹に巻き、虫が越冬に入ったところで、ほ場外に持ち出して処分する。
- 3 冬期に粗皮削りを行う。
- 4 幼虫発生期（6月上～下旬と7月下旬～8月中旬）に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) 2 8 【4000倍 7日／2回】
 - ・ [パダンSG水溶剤](#) 劇 1 4 【1500～3000倍 45日／4回】
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A 【2000～4000倍 前日／3回】
 - ・ [バシレックス水和剤](#) 1 1 A 【1000倍 発生初期(前日)／－】
 - ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【2000～3000倍 7日／5回】
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A 【2000倍 前日／3回】

カメムシ類

留意事項

- 1 発生量や加害時期は年により変動するので、園内への飛来状況に応じて早めに防除する。
- 2 ピレスロイド剤 (3 A) は残効が長いですが、連用するとハダニ類やカイガラムシ類などが増加するので注意する。
- 3 すぎやひのきの隣接園で被害が多い。

防除方法

- 1 7月以降発生を認めたら下記の薬剤を散布する。散布は園の周辺を重点的に行う。
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A 【2000倍 前日／3回】
 - ・ [アドマイヤー顆粒水和剤](#) 劇 4 A
【5000～10000倍 7日、ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く／3回】
 - ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【2000～3000倍 7日／5回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

カキクダアザミウマ

留意事項

- 1 カキクダアザミウマ防除は、特に発生初期（4月下旬～5月上旬）に散布する。また、多発園では6月中～下旬にも散布する。
- 2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 3 オルトラン水和剤とジェイエース水溶剤は、同一成分アセフェートを含むため、使用は合計2回まで。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [オルトラン水和剤](#) 1 B 【1500倍 45日／2回】
 - ・ [ジェイエース水溶剤](#) 1 B 【1500倍 45日／2回】
 - ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【2000倍 7日／5回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 1 3 【アザミウマ類 2000～4000倍 14日／2回】

チャノキイロアザミウマ

留意事項

- 1 被害は品種間差が大きく、平核無では被害が大きいが、富有ではほとんど被害がない。
- 2 いぬまき、サンゴジュ、茶、みかん、ぶどうにも発生する。
- 3 パダンSG水溶剤は、眼及び皮膚に強い刺激があるので注意する。また、樹勢の弱い場合には薬害を生じるおそれがあるので使用しない。
- 4 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 5 オルトラン水和剤とジェイエース水溶剤は、同一成分アセフェートを含むため、使用は合計2回まで。

防除方法

- 1 開花期前後から、下記の薬剤を散布する。
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 1 3 【アザミウマ類 2000～4000倍 14日／2回】
 - ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【2000～3000倍 7日／5回】
 - ・ [コルト顆粒水和剤](#) 9 B 【2000～3000倍 前日／3回】
 - ・ [オルトラン水和剤](#) 1 B 【1500倍 45日／2回】
 - ・ [ジェイエース水溶剤](#) 1 B 【1500倍 45日／2回】
 - ・ [パダンSG水溶剤](#) 劇 1 4 【1500倍 45日／4回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

フジコナカイガラムシ

留意事項

- 1 果実や樹皮の隙間までかかるよう、丁寧に散布する。

防除方法

- 1 冬期に粗皮削りを行う。
- 2 冬期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [機械油乳剤95](#) UNM
【落葉果樹（なし、りんご、かき、もも） カイガラムシ 16～24倍 —／—】
- 3 3月（発芽前）に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [石灰硫黄合剤](#) UN【落葉果樹 カイガラムシ類 7～10倍 発芽前／—】
- 4 幼虫発生期（6月上～中旬）に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A【カイガラムシ類 2000～4000倍 前日／3回】
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A
【コナカイガラムシ類 2000倍 前日／3回】
 - ・ [コルト顆粒水和剤](#) 9 B【カイガラムシ類 2000～3000倍 前日／3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。